

「今度ダ、の講演をやつて、金を儲けようと思つてゐるので、暇があつたら一緒に出て呉れませんか」

「そりや出ますよ」

僕の老子の會は遂々座談の形式で、日本大學でやりましたがね」

此んな事を話して、僕はそれから、戸塚の淺野の下宿へ行つてとまつた。

朝めし食つて矢來の新潮社へ出掛けた。

「佐藤義亮に面會したい」と言つたら、居ないと言つた。

庭に立つてゐると水守龜之助が這入つて來た。

僕は寫眞で知つてゐるので、

「君水守でせう」

「エーそうです」

「何愚圖々々するんだ」

僕がドナると奥から又ニヨコ／＼出て來た。